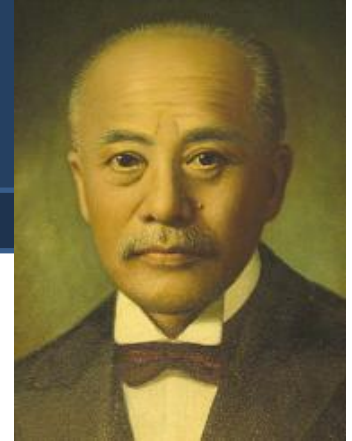


くれ あや とし
呉 文 聰 氏

○明治時代における我が国統計学の泰斗

○若くして杉亨二に師事し、欧米統計学を研究して多数の著書、論文を発表し、我が国統計学の普及、発展に貢献

○国勢調査法の制定、官庁統計の改革、整備に尽力



※ 島村史郎「日本統計史群像」（財団法人日本統計協会）から引用

略 歴

年 月 日	事 項
嘉永 4年(1851) 11月27日	江戸青山に生まれる（父は安芸藩浅野家の医師呉黄石、母は幕末から明治初期における我が国の代表的洋学者箕作阮甫の娘セキ）
文久 2年(1862)	この頃まで渡辺魯輔の下で漢学を学ぶ
明治元年(1868)	箕作麟祥の下で英語を学ぶ
〃	藩より命ぜられて大学南校の貢進生となるが中退する
3年(1870)	慶応義塾に入るが、約1年後、塾の風儀に合わないとして福澤諭吉から退塾を命じられる
〃	工部大学校へ入り測量を学ぶが、間もなく退校する
6年(1873) ~ 8年(1875)	工部省の電信寮訳文課に勤める
8年(1875) ~ 13年(1880)	太政官正院政表課に勤め、杉亨二の下で統計学を学ぶ
9年(1876)	杉亨二と共に開成学校（現在の東京大学）において統計学を講義する
13年(1880) ~ 15年(1882)	内務省衛生局に勤め、衛生統計を改良する
18年(1885)	東京専門学校（現在の早稲田大学）で統計学を講義する
18年(1885) ~ 23年(1890)	逓信省郵便局運輸課、同省逓信局記録課に勤める
24年(1891)	東京高等商業学校で統計学を講義する
24年(1891) ~ 34年(1901)	学習院大学科で統計学の嘱託講師、教授を兼任する
26年(1893) ~ 29年(1896)	農商務省に入り農商務属となる
28年(1895)	年末より国勢調査実施の件で同志と共に衆議院へ運動する（翌年、国勢調査建議案が衆議院を通過する）
29年(1896) ~ 31年(1898)	会計検査院属に任じられる
31年(1898) ~ 大正5年(1916)	慶応義塾で統計学講師に就任する
31年(1898) ~ 大正2年(1913)	農商務省統計課長を命ぜられる
33年(1900)	内閣統計局審査官を兼任し、半年間米欧へ出張。米の第12回国勢調査と英、仏、独の統計の状況を視察する
34年(1901)	議会へ国勢調査執行のための運動をする（翌年、国勢調査法が両院を通過する）
大正 7年(1918) 9月19日	死去（66歳）

※ 慶応義塾大学資料から引用